

第5学年 社会科学学習指導案

1 小単元名 「自然災害を防ぐ」 (7時間)

2 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

我が国における自然災害やその防止の取組の様子に関心をもって意欲的に調べ、我が国の国土では自然災害が起こりやすく、国や都道府県などが様々な対策を進めていることや、国民一人一人が協力したり防災意識を高めたりすることが大切であることを理解し、自然災害の多い国土に生きる国民としての生活の仕方を考えられるようにする。

(2) 小単元の評価規準

評価の観点	評価規準	学習過程の どこで
社会的事象についての 関心・意欲・態度	①日本の自然災害に関心をもち、私たちのくらしと自然災害の関連について意欲的に調べようとしている。	つかむ
	②自然災害の防止の重要性に関心をもち、自然災害の多い国土に生きる国民の一人としての在り方を考えようとする。	ふかめる
社会的な 思考・判断・表現	①自然災害の防止の取組について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。	つかむ
	②自然条件や自然災害、人々の生活や産業などを相互に関連付けて、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え適切に表現している。	まとめる
観察・資料活用の 技能	①地図や年表、その他の資料などを活用して、我が国の自然災害の様子や対策について必要な情報を集め、読み取っている。	調べる
	②調べたことをノートや関連図にまとめている。	調べる
社会的事象についての 知識・理解	①地形や気候などから自然災害が多く発生する国土の特色と、自然災害の防止の取組を理解している。	まとめる
	②自然災害の多い国土と国民の生活が関連していることを理解している。	ふかめる

3 小単元について

(1) 学習指導要領との関連

本小単元は学習指導要領の次の内容を受けて設定した。

- (1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。
- エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

本小単元では、自然災害の防止の取り組みとして「日本全国で起こる自然災害に対する国土交通省や地方自治体による対策」と「荒川の洪水に関する葛飾区の取り組み」を取り上げる。これらの社会的事象を関連付けながら学習することによって、「国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっている」という社会的事象の意味を考えられるようにしていく。

大単元の構想

	学習内容	指導要領との関連
大単元のオリエンテーション	わたしたちの生活と環境 ①自分たちの身のまわりの自然環境保護の取り組みについて（自然環境と自分のつながり①） ②日本にある世界自然遺産について知り、自然保護の取り組みを調べ、共通点を話し合う。 ③日本の自然環境について疑問を出し合う。 大単元のめあて 日本をよりよい環境にするために誰がどのような活動をしているのだろうか。	
第1小単元	わたしたちの生活と森林（事例①） ※国土に広がる森林が、国土の保全などにどのような役割を果たしているのかを考える。	内容エ
第2小単元	環境を守るわたしたち（事例②） ※国土の環境が、人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考える。	内容ウ
第3小単元	自然災害を防ぐ（事例③） ※自然災害の被害を防ぐために、自分たちを含む国民は何をすべきなのか考える。（自分とのつながり②）	内容エ

(2) 教材について

本小単元の学習を通して「国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっている」という社会的事象の意味を考えられるようにしていく。そのために、本小単元で取り上げる主な教材は「国や地方自治体による災害ごとの対策」「荒川の水害に関する国や東京都や葛飾区の取り組み」との2つである。教材の特徴として以下のことを考えた。

①日本全国の自然災害とその対策

日本は、平地よりも山地が多いことや、火山帯に属していること、海洋プレートがぶつかる位置にあること、台風が上陸することがあることなど、国土の特徴からみて自然災害が多い国である。このような特徴から、国土交通省は、各自治体と協力しながら自然災害に対する取り組みを行っており、その取り組みは全国どの自治体でも行われている。

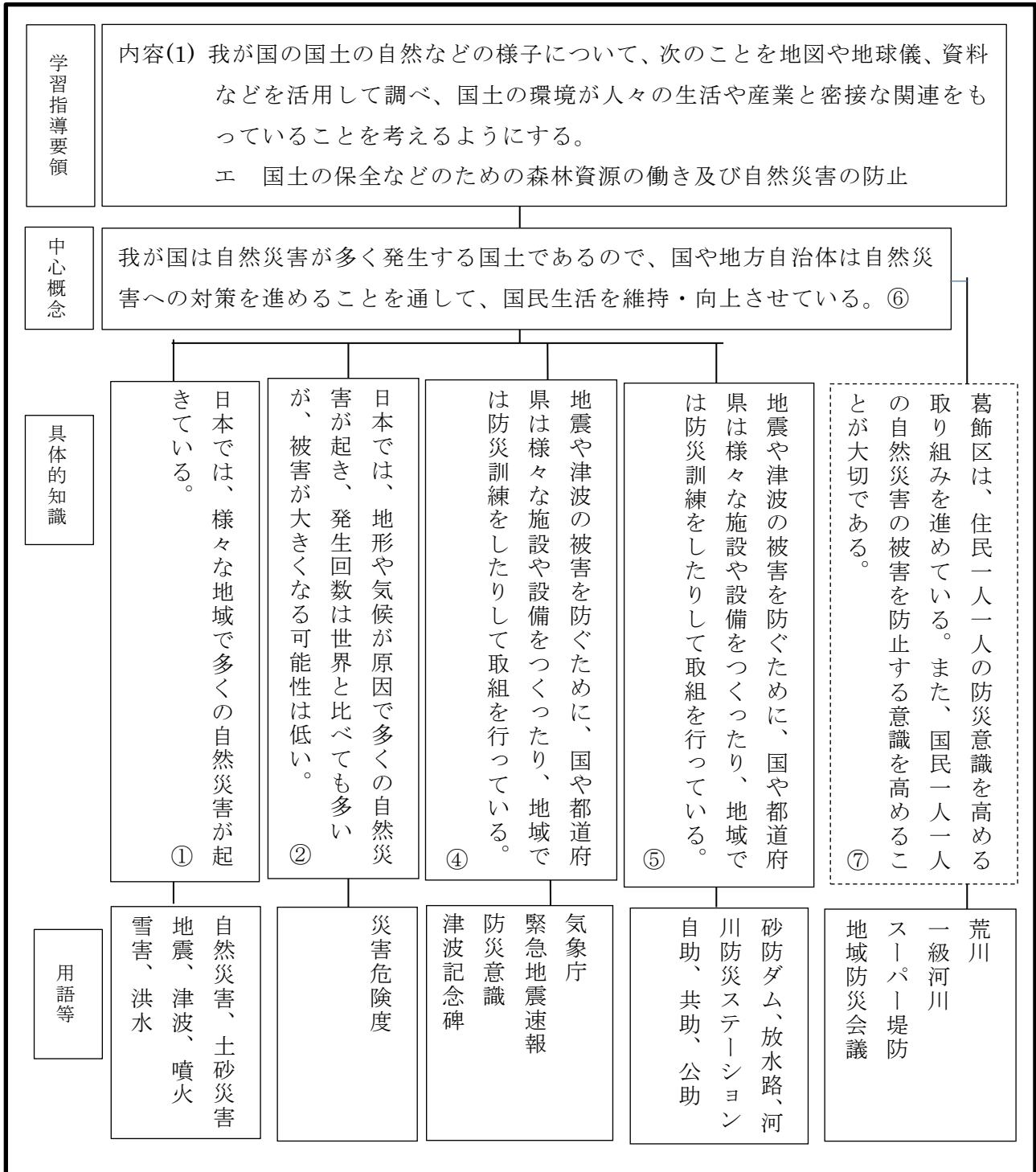
②荒川の水害に関する東京都や葛飾区の取り組み

荒川は埼玉県秩父山地に発し、東京湾に注ぐ、幹川流路延長173kmの一級河川である。荒川の兩岸にまたがって満潮位以下の土地、いわゆるゼロメートル地帯が広く存在する。ゼロメートル地帯では、河川が氾濫すれば、荒川下流域には首都機能が集中しており、被害は国家的規模に及ぶことから非常に重要な地域である。

東京都は建設局が中心となり、各市区町村と連携し情報を発信しているほか、荒川水系の柳瀬川や空堀川などの治水整備を行っている。

また、葛飾区は国の調査をもとに洪水ハザードマップを作成している。これは、水害時に区民が安全に避難をできるように作成されたものである。葛飾区としてはこのような取り組みを通して、区民が自分たちの地域の地形を理解し防災への意識を高めてほしいと考えているとのことである。

4 知識の構造と育てたい子供の姿



③は学習計画を立てる活動

 = ふかめる

育てたい子どもの姿

自然災害が多い日本の国土に生きる国民としての生き方を考えようとしている子ども。

5 研究主題との関連

よりよい社会について考えようとする子供の育成

～国土や産業のすがたを追求し、社会の一員としての考えを深める学習を通して～

本部会では、全体研究主題である「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を養う社会科教育」から、特に今年度から変更された副主題「社会的事象の見方・考え方をを用い、社会認識を深める学習を通して」を踏まえた上で、5年部会の副主題「国土や社会を迫及し、社会の一員として考えを深める指導の工夫」に重点を置き、児童の社会認識を深め、参画意識を培うための手立てを以下のように設定した。

○本小単元での手だて

(1) 身に付けさせる知識と育てたい子どもの姿の明確化

5の知識の構造と育てたい子供の姿に示した通り、身に付けさせる知識を明確にし、本小単元で育てたい子どもの姿を、明確にした。

(2) 社会的事象の見方・考え方に基づいた教材分析

位置や空間的な広がりから見て	時期や時間的な経過から見て
<p>【自然災害の種類に着目して調べ】 ○日本では様々な自然災害が発生している。</p> <p>【自然災害の広がりに着目して調べ】 ○自然災害は、区市町村を越えた広い範囲に渡って被害が発生することを捉える。</p>	<p>【自然災害の時期に着目して調べ】 ○日本では、繰り返し大きな自然災害が発生し、大きな被害を受けてきたことを捉える。</p> <p>【防災対策の変化に着目して調べ】 ○東日本大震災を契機に、「想定外」の災害を想定した対策をしている。 ○災害発生が予想される場所では、長い時間をかけて復旧・復興・防災対策が行われていることを捉える。</p>
<p>【国民生活と関連付けて考え】 ◎国や都道府県などの自然災害に対する防災や減災の対策は、わたしたちの国民生活を守る重要な役割を果たしていることを理解する。</p>	
<p>【自然災害と発生原因に着目して調べ】 ○我が国では、土砂災害、地震災害、火山の噴火など様々な自然災害が国土の地形条件や気候条件などに関連して発生しており、自然災害の発生自体を止めることはできないことを捉える。</p>	<p>【自然災害の対策や事業に着目して調べ】 ○国土交通省は、他の省庁と連携を取りながら防災に向けた対策をしている。 ○自然災害に対し、災害の種類に応じて、様々な防災・減災の対策や事業を進めていることを捉える。</p>
<p>社会的事象や様々な立場の人々の相互関係の視点から見て</p>	

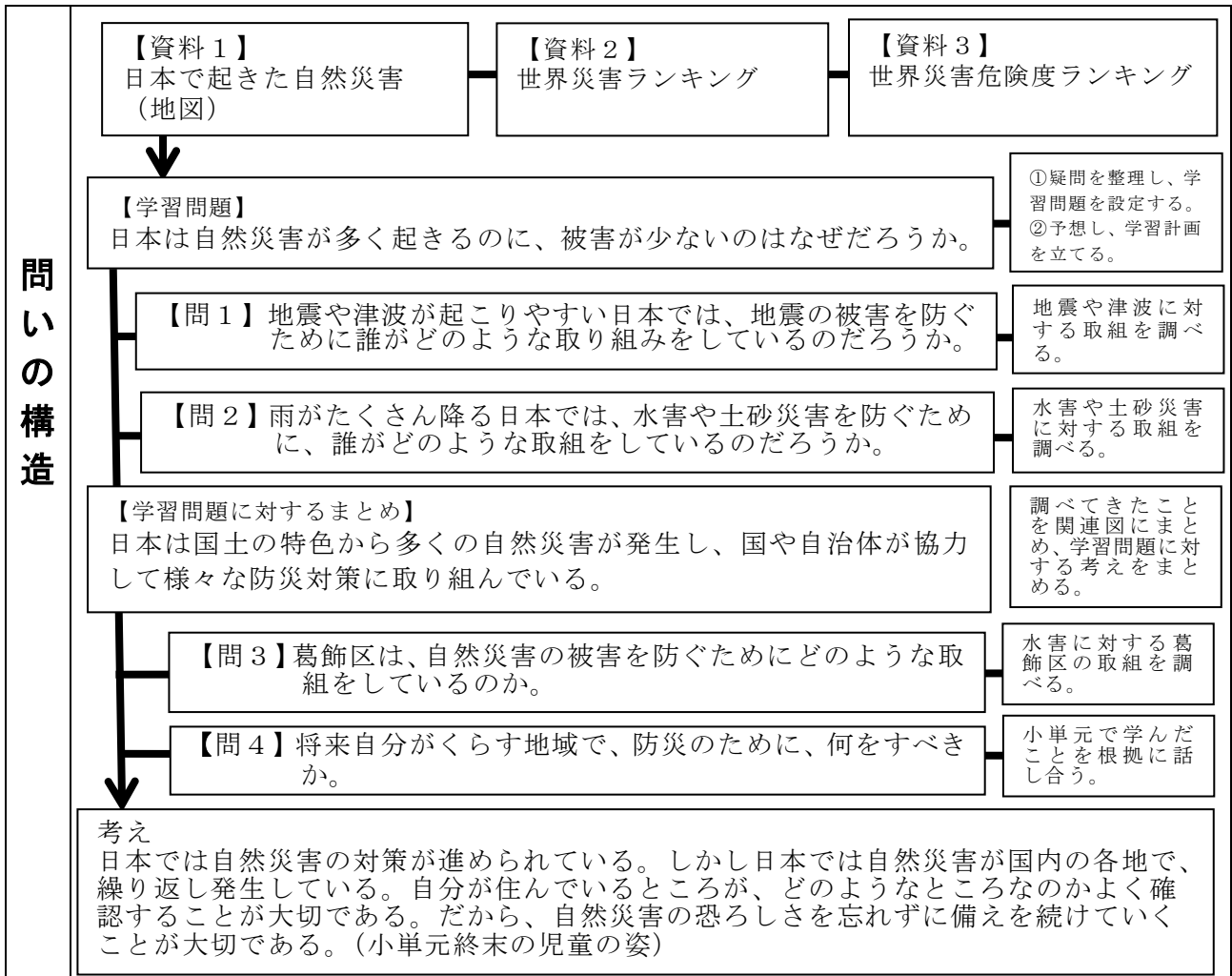
(○…知識、【】…追究の視点や方法)

本小単元では、様々な自然災害の被害を防ぐための国土交通省の取組や各自治体との関連性について教材化した。以下のような視点に位置付くと考えた。

- | | | | |
|-----|------------|---|--|
| 視点1 | 時期や時間的な経過 | → | 自然災害の被害を防ぐための取組や各自治体と協力体制の変化。 |
| 視点2 | 位置や空間的な広がり | → | 東京都や葛飾区における水害の被害を防ぐ対策が全国的にあること。 |
| 視点3 | 国民生活と関連 | → | 我が国の国土では自然災害が起こりやすく、国民一人一人が防災の意識をもつことが大切であること。 |
| 視点4 | 人の営みが見える | → | 国や都道府県などは自然災害の対策を進めていること。 |

(3) 問題解決的な学習の過程に即した追究の問いの構造

小単元の学習問題に対する追究の問いを整理しておくことで、社会的事象の見方・考え方の追及の視点が明確になり、その問いがどのように学習問題に対する自分の考えにつながっていくのかを構造的に示した。

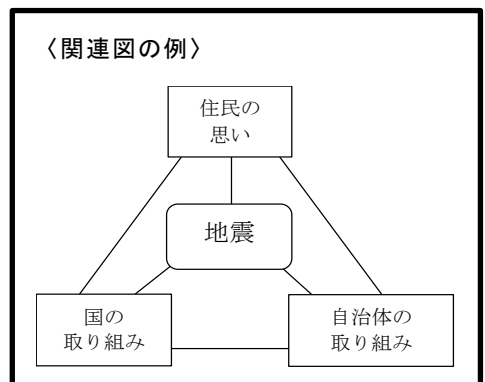


(4) 思考を促すための学習活動 【関連図を用いた学習活動】

「つかむ」段階において、日本では様々な地域で多くの自然災害が起きているが、災害に対する危険度は世界的に見ても低いという事実をつかむことが、学習問題につながる疑問が児童から出てくると考えた。また、第2時で学習問題に対する予想を考える際、根拠になると考えた。

次に、「調べる」段階において、まず国土交通省や東京都が取り組んでいる地震や津波、水害の対策は、学級全体で調べ関連図にまとめる活動を取り入れた。関連図のまとめ方は、地震に対する対策を調べる際に示すようにする。関連図は、「国」「地方自治体」「地域住民(自分も含む)」などの立場を明確にし、それぞれの関係性を具体的に記述していく。

そして、「まとめる」段階では、まとめた関連図をもとにそれぞれ発表する場を設け、対策の共通点を見出す活動を取り入れた。そのことで、どの自然災害でも国土交通省と地方自治体が協力しながら対策を進めていることや、地域住民も主体的に取り組んでいることが明確になり、国民一人一人が防災意識をもって生活することが大切なことを理解していく際の手立てとなると考えた。



6 小単元の指導計画と評価計画 (7時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	○主な学習活動 問 問 ・予想される児童の反応	教師の指導・支援 (□留意点◎資料◇評価)
	① 日本の自然災害について調べ、日本では多くの種類の自然災害が様々な場所で毎年多く起きていることに気付けるようにする。	<p>○写真を見て、日本では様々な自然災害が起きていることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波で船が家の上に載った。 ・噴火で学校より大きい噴煙が上がった。 ・広島市の洪水で家が流された。 <p>○日本で起こった主な自然災害の場所や年について調べ、地図上に表し、日本の自然災害と発生場所について気付いたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県は大きな地震が2回も起こった。 ・地震はいろいろなところで起きている。 ・毎年自然災害は起きている。 ・自然災害は全国各地で起きている。 	<p>◎自然災害の被害の様子 (写真)</p> <p>□自然災害の意味をおさえる。</p> <p>◎日本で起きた主な自然災害の年表(場所付き)</p> <p>◎白地図</p> <p>□自然災害の種類別に色分けされたシールを白地図に貼らせる。</p> <p>□シールを貼って気付いたことをグループで交流した後、全体で交流する。</p> <p>◇日本の自然災害に関心をもち、私たちの暮らしと自然災害の関連について意欲的に調べようとしている【ア①】(学習態度)</p>
つかむ ① ② ③	② 日本の自然災害と地形の関係や災害危険度ランキングから、学習問題を考え表現できるようにする。	<p>○前時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では毎年多くの自然災害が起こる。 ・日本ではどこでも自然災害が起こる。 <p>○日本の国土と自然災害の関係について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山がたくさんあり、土砂災害や噴火が起こりやすい。 ・日本は4つのプレートの上にあるから、地震が起こりやすい。 ・雪のたくさん降る日本海側は雪害が起こる。 <p>○日本は世界的に見て自然災害が多く起きる国であるが、世界と比べて日本は自然災害が起こっても被害が少ないことから、学習問題を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は世界的にも自然災害が多く起こる。 ・世界と比べて日本は自然災害が起こっても、被害は少ない。 ・日本は災害が起こる可能性は世界で4位だったのに、受ける被害の大きさは17位になっている。 ・どうして、被害が少ないのかな。 ・誰かが何か対策をしているのかな。 	<p>◎自然災害に関するランキング</p> <p>□自然災害が多く起きる理由は、今まで学習したことも想起するよう伝える。</p> <p>□起こりやすい場所や起きる理由は、表を用いて災害ごとにまとめる。</p> <p>◎日本の主な地形を表した地図</p> <p>◎日本の気候区分</p> <p>◎自然災害に関するランキング</p> <p>◇日本は国土の特色から自然災害が多く起こる可能性があることを理解している。【エ①】(ノート記述)</p> <p>◇自然災害の防止の取組について、学習問題を考え表現している。 【イ①】(ノート記述)</p>
<p>学習問題 日本は自然災害が起きやすい条件なのに、被害が少ないのはなぜだろう。</p>			

	<p>③ 学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てられるようにする。</p>	<p>○予想を整理し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か対策しているのではないか。 ・気象庁は地震が起きる前に緊急地震速報で知らせると思う。 ・国が洪水や津波対策で堤防をつくっているのではないか。 ・東京都や葛飾区のホームページで災害情報が載っていたから、他の地域でもホームページで情報を載せているのではないか。 ・自分たちが避難訓練をしているし、他の地域でも避難訓練をしているから、全国でも同じようなことをしているのではないか。 ・葛飾区のハザードマップがあったな。 <p>問1 地震や津波の被害を誰がどのように防いでいるのか。</p> <p>問2 洪水や土砂災害の被害を誰がどのように防いでいるのか。</p>	<p>□調べる自然災害は、地震と津波、洪水と土砂災害であることを伝える。</p> <p>□人に注目させるような問いを構成する。(誰が・どのような対策をとっているのか。)</p> <p>◇自然災害の防止の取組について、学習問題から予想を考え、学習計画を表現している。</p> <p>【イ①】(発言、ノート記述)</p>
<p>調べる④</p>	<p>④国や県、地域の地震や津波の被害を防ぐ取組について調べることができるようにする。</p>	<p>【問1】 地震や津波の被害を誰がどのように防いでいるのか。</p> <p>○国と県(都)の取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象庁は緊急地震速報を出して、素早い非難ができるようにしている。 ・気象庁が津波を観測し、情報を伝えている。 ・津波が堤防を越えた場合に堤防が壊れるまでの時間を遅らせるようにしている。 ・津波の危険性のある都道府県は、国土交通省の計画を基に津波防災地域づくりを進めている。 <p>○地域での取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県釜石市は大学の先生が小学校へ行き、津波防災教育を10年前から行っている。 ・岩手県宮古市では津波記念碑を建て、先人の思いを語り継いでいる。 	<p>□国と県(都)は協力しながら取組を進めていることをおさえる。</p> <p>□防災意識をもつことも大切であることを伝える。</p> <p>◎堤防(写真)</p> <p>◎津波防災地域づくり</p> <p>◎気象庁HP</p> <p>◎釜石市の方の話</p> <p>◎津波記念碑(写真)</p> <p>◇地震や津波の対策について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>【ウ①】(ノート記述)</p> <p>◇調べたことを表にまとめている。</p> <p>【ウ②】(表)</p>

	<p>⑤国や県、地域の水害や土砂災害の被害を防ぐ取組について調べることができるようにする。</p>	<p>【問2】洪水や土砂災害の被害を誰がどのように防いでいるのか。</p> <p>○国と県（都）の取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国は、土石流が起りやすいところに砂防ダムをつくっている。 ・埼玉県や東京都では、地下に大きな放水路をつくって、大雨に備えている。 ・国は、河川防災ステーションの整備をしている。 <p>○地域での取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県日之影町の神影地区では、消防団の人たちが早めの避難を呼び掛けている。 ・消防団で復旧作業をしている。 ・消防団の人たちは、土砂災害の前兆を調査している。 	<p>□東京都の放水路は、江戸川や荒川、中川や綾瀬川と葛飾区も流れている川の氾濫対策であることを伝える。</p> <p>□地域での取組により、土砂災害による犠牲者が一人も出なかったことを伝える。</p> <p>◎水害や土砂災害の被害を防ぐ施設（写真）</p> <p>◎神影地区の人の話</p> <p>◇水害や土砂災害の対策について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>【ウ①】（ノート記述）</p> <p>◇調べたことを表にまとめている。【ウ②】（表）</p>
<p>まとめる⑥</p>	<p>⑥これまでにまとめた表から、学習問題に対する自分の考えをまとめられるようにする。</p>	<p>○これまでにまとめた表から、自然災害の発生場所や発生原因を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は、地形や気候の特色から様々な種類の自然災害が起きる。 ・山側は、土砂災害や噴火があり、海側は、津波がある。 ・日本は4つのプレートが重なっているため、どこでも地震が起こる可能性がある。 <p>○学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や都道府県は、協力しながら被害を防ぐ取組をしているから、自然災害の被害が少ない。 ・地域の人もその地域で起こる自然災害に向けて防災意識をもって取組を進めているから、自然災害の被害は少ない。 ・国も都道府県も地域の人も、自然災害に向けて対策をしているから、自然災害の被害は少ない。 	<p>□国民の中には自分たちが含まれていることをおさえる。</p> <p>□自然災害の発生場所や原因を再度確認し、日本の国土の特色として自然災害が多いことをおさえる。</p> <p>□国民は一人一人が防災意識を高める必要があることが気付けるようにする。</p> <p>◎自然災害についてまとめた表</p> <p>◎東日本大震災当日の避難の様子（写真）</p> <p>◇国や地方自治体、地域住民は様々な対策や事業を行っており、国民一人一人の協力や防災意識の向上が大切であることを理解している。</p> <p>【エ②】（ノート記述）</p> <p>◇自然条件や自然災害、人々の生活や産業などを相互に関連付けて、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え適切に表現している。</p> <p>【イ②】（ノート記述）</p>

⑦ 葛飾区での自然災害に向けての取組を調べ、自分は自然災害に向けて何をすべきか考えられるようにする。

○葛飾区の地形条件からどのような自然災害が起こる可能性が高いか話し合う。
 ・地震はどこでも起こるから、地震が起こるかもしれない。
 ・大きな川がいくつも流れ、土地が低いから大雨が降ったら水害が起こるかもしれない。

□鬼怒川が決壊したとき、葛飾区を流れる江戸川も増水したことを伝え、違う地域で大雨が降っても葛飾区に影響があることに気付けるようにする。

【問3】 葛飾区は、自然災害の被害を防ぐためにどのような取組をしているのか。

○国・都・区の地震や水害対策を調べる。
 ・葛飾区は、葛飾区の流れる川のハザードマップをつくっている。
 ・国は、荒川の堤防をつくっている。
 ・国は、洪水が起こったらどこまで水位が上がるか電信柱で知らせている。
 ・東京都は、地下放水路をつくっている。
 ・東京都は、中川や江戸川の整備をしている。

□将来日本のどこに住むか分からないから、その地域に合った取組が必要であることを伝える。
 ◎鬼怒川決壊の新聞記事
 ◎葛飾区の立体図
 ◎葛飾区ハザードマップ
 ◎荒川堤防の資料
 ◎東京都HP

【問4】 将来自分がくらす地域で、防災のために、何をすべきか。

○日本に住む人間として、自然災害とどのように向き合っていくか考え、交流する。
 ・その地域の地形を調べ、どのような自然災害が起こるか確認したい。
 ・その地域のホームページから、災害情報をいつでもつかめるようにしたい。
 ・その地域の歴史を調べて、どのような災害があったか確認したい。
 ・その地域の防災訓練に参加したい。
 ・ハザードマップを確認して、避難場所を決めたい。

◇自然災害の多い国土と国民の生活が関連していることを理解している。
【エ②】 (ノート記述)
 ◇自然災害の防止の重要性に関心を持ち、自然災害の多い国土に生きる国民の一人としての在り方を考えようとしている。
【ア②】 (ノート記述)

7 本時の指導（1／7時）

- (1) 日本の自然災害について調べ、日本では多くの種類の自然災害が様々な場所で毎年多く起きていることに気付けるようにする。
- (2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□資料 ※指導上の留意点 ◇評価
つかむ (5分)	○日本では様々な自然災害が起きているに気付く。 ・津波で船が家の上に載った。 ・噴火で学校より大きい噴煙が上がった。 ・河川の氾濫で家が流された。	□東日本大震災の被害の様子（写真） □熊本地震（写真） □三宅島噴火（写真） □鬼怒川の決壊（写真） □広島市土砂災害（写真） ※自然災害の意味をおさえ、起きた場所に注目させ、発生場所への関心を高める。
日本で起こる様々な自然災害は、どこで起きているのだろうか。		
調べる (30分)	○日本で起こった主な自然災害の場所や年について調べ、地図上に表し、日本の自然災害と発生場所について気付いたことを交流する。 ・新潟県は大きな地震が2回も起こった。 ・地震はいろいろなところで起きている。 ・海側で津波が起こっている。 ・毎年何かしらの自然災害が起きている。 ・関東地方は大雨の災害があるが、雪害がない。	□日本で起きた主な自然災害の年表 □白地図 □水害が起こった場所（日本地図） ※自然災害の種類別に色分けされたシールを白地図に貼らせる。 ※シールを貼りながら気付いたことをグループで交流した後、全体で交流する。 ※シールを貼っていないところは自然災害が起きていないと思う児童もいると予想できるので、自然災害は全国各地で起きていることに気付けるようにする。
まとめる (10分)	○学習の振り返りをする。 ・日本では、全国各地で災害が起きている。 ・日本の自然災害は、毎年たくさん起こる。 ・なぜたくさん起こるのだろうか。 ・日本海側はなぜ雪害が多いのだろうか。	□振り返りには、授業のまとめと学習感想を書くことを伝える。 ※授業のまとめは、板書やノートを参考にし書くよう伝える。 ◇日本の自然災害に関心をもち、日本で起きている自然災害の様子について意欲的に考えている。【ア①】（学習態度）

(3) 板書計画

自然災害…異常な自然現象により起こる災害		日本地図	自然災害と場所について気付いたこと
津波	地震		<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県は大きな地震が2回も起こった。 ・地震はいろいろなところで起きている。 ・海側で津波が起こっている。 ・毎年何かしらの自然災害が起きている。 ・関東地方は大雨の災害があるが、雪害がない。
東日本大震災の被害の様子	熊本地震		
噴火	雪害		
三宅島の噴火	雪害による鉄塔倒壊		
洪水	土砂災害		
鬼怒川の決壊	広島市		
			まとめと感想
			<ul style="list-style-type: none"> ・日本では、どこでも災害が起きている。 ・日本の自然災害は、毎年たくさん起こる。 ・なぜたくさん起こるのだろうか。 ・日本海側はなぜ雪害が多いのだろうか。

7 本時の指導（2／7時）

(1) ねらい

- ・日本の自然災害と地形の関係や災害危険度ランキングから、学習問題を考え表現できるようにする。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□資料 ※指導上の留意点 ◇評価
つかむ (7分)	<p>○前時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は毎年、多くの自然災害が様々な場所で起こっている。 <p>○日本が自然災害の国土リスクが世界第4位であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の中でも日本は自然災害起こりやすい国なんだ。 ・地震は特に世界の中でも多く起こっている。 ・なんでそんなに自然災害が起こるのだろう。 	<p>□第1時で作成した全国の自然災害マップ（地図）</p> <p>※前時のまとめで出た疑問を紹介する。</p> <p>※日本の自然災害が起こる可能性の高さは世界第4位であることを伝える。</p> <p>□国連大学「世界リスク報告書2016年」</p> <p>□世界のおもな地震が発生した場所</p>
	日本は、なぜ自然災害が多く起こるのか。	
調べる (28分)	<p>○日本で自然災害が多く起きる理由について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は4つのプレートの上にあるから、地震が起こりやすい。 ・日本は山がちで川が短く急だから、大雨が降ったら洪水や土砂災害が起こってしまう。 ・低い土地は、大雨が降ると川があふれてしまう。 ・活火山が多いから噴火も多い。 ・日本の地形や気候が大きく影響している。 <p>○世界の自然災害に対する危険度ランキングから疑問をもち、学習問題を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして危険度が下がっているのだろう。 ・なんで災害は多いのに、危険度は低いのだろう。 ・誰かが何かしているのかな。 <p>○学習問題を見出す。</p>	<p>※地震が起こる仕組みを伝える。</p> <p>※図や地図から、地形や気候についておさえる。</p> <p>※発生しやすい場所は全体で確認する。</p> <p>※今まで学習したことも想起するように伝える。</p> <p>※起こりやすい場所や起きる理由を、表にまとめる。</p> <p>□日本の主な地形を表した地図</p> <p>□日本の気候区分</p> <p>※日本の自然災害が起こる可能性の高さは世界第4位であるが、被害の大きさは世界第17位であることを伝え、その差から学習問題を見出せるようにする。</p> <p>□国連大学「災害ダメージ2016年」</p>
	<p>学習問題</p> <p>日本は自然災害が多く起きるのに、被害が少ないのはなぜだろう。</p>	
まとめる (10分)	<p>○学習問題に対する予想を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か対策しているのではないか。 ・気象庁は緊急地震速報で知らせる。 ・国が堤防をつくっている。 ・自分たちは避難訓練をしているし、地域でも避難訓練をしているから、全国でそのようなことをしているのではないか。 	<p>◇自然災害の防止の取組について、学習問題を考え表現している。</p> <p>【イ①】（ノート・発言）</p>

(3) 板書計画

前回のふり返り
日本は毎年、多くの自然災害が様々な場所で起こっている。

日本地図

自然災害国土リスク
1位：バヌアツ
2位：トンガ
3位：フィリピン
4位：日本

自然災害国土リスク
1位：バヌアツ
2位：トンガ
3位：フィリピン
4位：グアテマラ
⋮
17位：日本

日本は、なぜ自然災害が多く起こるのか。

自然災害	場所	発生原因
地震	どこでも	4つのプレート
津波	海沿い	海に囲まれている
洪水	川の近く 低い土地	梅雨や台風 川の方が土地より 高い
土砂災害	山地 流れの急 な川	豪雨により崖が 崩れる
噴火	活火山	活火山が多い
雪害	雪の降る 地域	季節風の影響で 冬に雪が多く降る

学習問題
日本は自然災害が多く起きるのに、被害が少ないのはなぜか。

予想

- ・対策をしている。
- ・緊急地震速報(気象庁)
- ・堤防(国)
- ・避難訓練(自分たち)

世界の主な地震が発生した場所